

# 茨城県 社会福祉士会 NEWS

NO. 66  
**発行** 一般社団法人 茨城県社会福祉士会  
 Ibaraki Association of certified Social Workers  
**発行日** 令和2年3月20日<2020. 3. 20>  
**編集** 広報事業部  
**事務局** 〒310-0851  
 茨城県水戸市千波町1918  
 茨城県総合福祉会館内  
**Tel** : 029-244-9030  
**Fax** : 029-244-9052  
 ホームページ <http://www.csw-iba.org/>  
 Eメール [csw-iba@ibaraki.email.ne.jp](mailto:csw-iba@ibaraki.email.ne.jp)

## 第2回 共通基盤研修を開催しました！！ ～子どもの虐待の理解と家族支援について～



茨城県保健福祉部 子ども制作局  
 青少年家庭課 木滝恵理 氏



日本社会事業大学専門職大学院  
 教授 宮島清 氏



演習発表の様子

### ◎新型コロナウイルスへの対応について◎

会員の皆さまには別途郵送でもお知らせいたしましたが、今般、新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、不特定多数の人が集まるイベントを中止する動きが広まっています。

そのため、当会でも3月中に開催予定だった定時総会をはじめ各研修の開催を中止や延期をさせて頂きました。4月以降につきましても、状況のみて実施の可否を検討してまいります。

社会福祉士の多くは高齢者や障がい者など利用者の方々と直接かかわる仕事をしており、私たち自身が感染の媒介者となるリスクは避けなければなりません。

皆さまどうぞご理解、ご協力のほどお願いいたします。

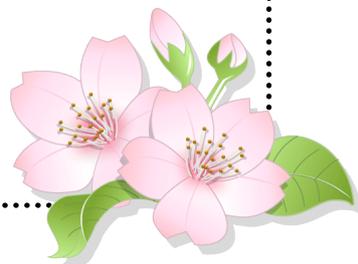
### ◎全国大会(高知大会)

#### 中止のお知らせ◎

6月開催の第28回 日本社会福祉士会全国大会(高知大会)の中止が決定されました。参加を楽しみにされていた皆さん、準備を重ねてきた高知県社会福祉士会の皆さんにとって中止は大変残念なことと思いますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための決断になります。

既に日本社会福祉士会及び高知県社会福祉士会のホームページ上に掲載されていますが、ご存じのない方がおりましたらお伝え頂けますようお願いいたします。

- 第2回共通基盤研修を開催しました…1
- 新型コロナウイルスへの対応について…1
- 茨城県でも DWAT (災害派遣福祉チーム) が始まります…2
- 三団体合同研修に参加して…3
- 社会福祉士共通基盤研修を受講して…4
- 「行動分析による認知症ケア」研修に参加して…5
- 会員の声「社会福祉士として」…6
- ブロック活動報告
- (県北、県央、県南、県西、鹿行)…7～11
- 第32回 国家試験結果、編集後記…12



# 茨城県でもDWA T（災害派遣福祉チーム）が始まります！



本年 2 月 4 日（火）、本会は茨城県及び茨城県社会福祉協議会と「茨城県災害派遣福祉チームの派遣に関する基本協定」を締結しました。

いばらきDWA Tは、大規模災害時に避難所に派遣され、二次被害（生活機能の低下、要介護度の重度化等）を防止するための活動をおこないます。

チーム員登録のための研修が茨城県及び茨城県社会福祉協議会によって実施されることになっているので、詳細が決まりましたら連絡します。



協定を締結した本会以外の福祉関係団体 ※ 法人格は省略

|                 |                |
|-----------------|----------------|
| 茨城県社会福祉施設経営者協議会 | 茨城県心身障害者福祉協会   |
| 茨城県老人福祉施設協議会    | 茨城県介護老人保健施設協会  |
| 茨城県児童福祉施設協議会    | 茨城県保育協議会       |
| 茨城県救護施設協議会      | 日本医療救援機構       |
| 茨城NPOセンター・コモンズ  |                |
| 茨城県介護福祉士会       | 茨城県精神保健福祉士会    |
| 茨城県介護支援専門員協会    | 茨城県ソーシャルワーカー協会 |



## 携帯電話やスマートフォン等を利用した連絡網への登録をお願いします！

郵送費等の低減と会員の皆様への情報提供の迅速化を目的とした連絡網システム（マ・メール）へのご登録をお願いいたします。

- ①迷惑メール防止機能をご利用の方は「mamail.jp」からのメールを受信できるようにご設定ください。
- ② [csw-ibaraki@mamail.jp](mailto:csw-ibaraki@mamail.jp) に空メールを送信してください。
- ③ 折り返し送られてきた「入会お礼メール」の本文末に記載されているリンクをクリックし、プロフィール入力画面にしてください。
- ④ 表示された画面でプロフィールを入力し、[登録]をクリックして登録完了です。

※登録は、一人につき一つのメールアドレスに限定して頂けるようお願いします。



# 三団体合同研修に参加して



筑波大学附属病院 岩田 直子

令和2年1月12日（日）水戸協同病院にて、茨城県ソーシャルワーカー協会、茨城県精神保健福祉士会、茨城県社会福祉士会三団体による合同研修が開催されました。今回は筑波大学医学医療系災害・地域精神医学教授であり DPAT 活動等に取り組んでおられる太刀川弘和先生から「災害とメンタルヘルス～被災者・受援者・支援者の心理と対応～」をテーマに講演がおこなわれ、40名程の参加がありました。私自身、DPAT 隊員として活動する中で改めて「災害支援」における課題の整理をしたいとの思いがあり参加しました。

まず、先日の令和元年台風15号・19号における茨城 DPAT の活動内容として、複数の被災地に出動し様々な地域精神保健ニーズに対応したこと、茨城県こころの医療センターと筑波大学附属病院の IT による後方支援、初めて茨城精神病院協会による LocalDPAT の出動が実現したことの報告がありました。

次に、被災者の心理と災害後に起こりやすい精神障害として、過去のデータから、災害前後での ICD-10-F4（ストレス関連障害）の著増が示されました。自殺リスクとして、個人的要因と社会的要因が挙げられ、都市化度、経済状況、復興状態等のコミュニティの変化や喪失が被災者個人の2次的ストレスに影響する相互性について認識し、私達ソーシャルワーカーが、個人と地域を分断せず、共に支援していくことの大切さを改めて感じました。特に、災害復興期は生活パターンが変化し、問題の個別化が進むため、健康な人と要支援者の格差が出現すること、不安や抑うつ等の精神症状悪化リスクがあることを改めて理解しました。

支援者の心理に関しては、バーンアウトや二次的トラウマ、共感疲労、感情労働といった、通常業務でも起こりうる状態が、災害場面ではより強固となる可能性について学びました。さらに、平時は支援者側の立場である受援者のストレスが、支援と受援のミスマッチや支援側の不全感による言動から起こる構造を知り、新たな気づきを得ることができました。最後に、災害精神医療から地域精神保健福祉への移行、支援・復興とはどこまでをいうのか？という課題をいただき講演は終了しました。

本県はここ数年、様々な自然災害が多発し、私達は被災者・受援者・支援者のどの立場にもなりうる可能性があるといえます。今回の研修を受講して、改めて所属組織の BCP（事業継続計画）を確認し業務上の災害対策をおこなうとともに、自身の災害支援活動、同僚の活動、受援側となる場合等を想定し、支えあう仲間づくりや、出動・休息できる環境づくり、援助希求しやすい体制を整備していきたいと感じました。また、個人とコミュニティを支援する上では、量・質・継続性の担保が重要であることから、職能団体における災害支援活動の意義を感じるよい機会となりました。

研修を企画していただいたご担当の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 社会福祉士共通基盤研修を受講して



県北ブロック 石 梨絵

令和2年2月29日（土）、茨城県立健康プラザにおいて開催された社会福祉士共通基盤研修のプログラムは、「茨城県における児童虐待の現状について」と「子ども虐待の理解と家族支援」の二つの内容についてでした。

まず、茨城県保健福祉部 子ども政策局 青少年家庭課 木滝恵理氏より、茨城県における児童虐待防止対策について、現状から防止対策までご説明いただきました。国が示した児童虐待防止対策体制総合強化プランに基づき、児童福祉司等専門職の確保や児童相談所職員の専門性の向上に努め、児童相談所の体制強化を図ることが対策のひとつとされており、児童相談所の体制強化については、新たに中央児童相談所の設置を行うこと、その中央児童相談所に企画部門を設置することで、児童相談所全体の研修企画や市町村支援の強化を図る、といった内容が示されていました。茨城県内の児童相談所の再編についても計画が進められているとのこと、子ども家庭支援における社会資源について理解を深めることが出来ました。

次に、日本社会事業大学専門職大学院 宮島清先生による講義と演習を行いました。

宮島先生は2018年度子ども家庭支援ソーシャルワーク研修を受講した際に、子ども家庭福祉における地域包括支援についての講義があり、当時の事例（東京都目黒区5歳児死亡事件と東京都新宿区漫画喫茶新生児絞殺事件が事例として挙げられていました）を見ながら、包括的支援についてお話いただいたことが大変印象に残っています。今回も11の事例を見ながら考察をしていきましたが、この2年間の間にもたくさんの事例が増えていることに、児童虐待が年々増加傾向にあることを痛感しました。

演習では、専用事例を用いてグループワークを行いました。事例に対しての様々な角度からのアセスメントが大切であることを学びました。これまでの経験による「思い込み」や「決めつけ」ほど、実践を阻んでしまうことなのだと感じました。俯瞰な姿勢で検証・探求・参加することが実践のプロセスにつながることに、ミクロ・メゾ・マクロレベルのそれぞれで課題を考えることが必要であることを理解しました。

普段、高齢者を対象とした事業所で従事しており、児童虐待についての現状や子ども家庭支援について考える機会が少なかったこともあり、今回の研修で詳しく知ることが出来ました。分野の垣根を越えて「権利擁護」について考えていくことで、今回の研修の目的にもあった、社会福祉士本来の役割と機能が果たすことが出来るのだと感じました。今回得た気づきを実践に活かすことが出来るよう、また日々一歩ずつ精進していきたいと思います。

最後に、連日新型コロナウイルスにおける感染が話題となっている中、入室前のアルコール消毒や、研修会場に除菌グッズを設置する、休憩中に換気を実施するなど、受講しやすい環境を提供いただけたことに感謝いたします。ご講義いただいた講師のお二方、事務局の皆様にお礼を申し上げます。



# 「行動分析による認知症ケア」研修に参加して



県南ブロック 谷口 照子

令和元年 12 月 14 日（土）霞ヶ浦医療センター講堂にて筑波大学 人間系 山中克夫准教授による「行動分析による認知症ケア」の貴重な講義をして頂きました。

認知症症状のなかの特に周辺症状（BPSD）において、より安全な非薬物的介入を優先すべきであるという事から、BPSD の対応に最も有効とされる応用行動分析をすることで改善の糸口を探り、その改善を図っていくものでした。

BPSD である介護抵抗、徘徊、妄想、食行動異常等には認知機能の障害の程度や心理症状が行動として表れている。改善したい BPSD が出現するその前と後の環境（状況）の変化、出現時間、誘因、環境要因などの特徴、その時の本人には何が見えて、どう感じているのかを推察し、BPSD 出現の前後の環境要因を少し変化させる事で起こりにくい状況を作っていくという作業をしていく。

この作業は介護にかかわる関係者で、これまでの対応で上手くいったとき、いかなかったときの情報を整理し、共有してく事で、チームマネジメントに広げ、これにより BPSD が減ってよかったという事だけでなく、本人の QOL を高める事にも繋がり、認知症ケアの質を保つ大切な作業であると感じました。

最後に、山中准教授が「皆さんがその方の事を一番よくご存じなのです。行動分析はそれら情報を整理共有する事をサポートするものです。」と話されたのが印象的でした。

追伸：

「認知症ちえのわ net」では認知症の人におこる様々な症状に対する「うまくいく・いかなかった」対応法の確率・集計が公開されています。是非、ご活用くださいとおすすめでした！



## ★新規入会会員大募集中です★

職場やご友人に社会福祉士の資格をお持ちでまだ社会福祉士会に入会されていない方はいらっしゃいませんか？また、新たに社会福祉士国家試験に合格した方はいらっしゃいませんか？もし身近にそんな方がおりましたら、ぜひぜひ社会福祉士会への入会のお声かけをお願いいたします。

茨城県社会福祉士会事務局にも入会申込書を準備しております。お電話を頂くか、ホームページ(<http://www.csw-iba.org/>)にある入会申込書請求フォームから入会に必要な書類を請求できますので、大いにご活用くださいね。



# 社会福祉士として

結城市役所 大石 紗花

私が大学を卒業し市役所へ就職して4年が経とうとしています。最初の2年は介護保険課で介護認定事務、そして昨年度より社会福祉課で障害児者の相談支援、障害福祉分野の協議会や講演会の運営に携わらせていただいております。

もともとおじいちゃんおばあちゃんと関わるのが好きな私は小学生の頃から介護福祉士になりたいと思い、医療福祉系大学に進学しました。後々相談にも携わりたく社会福祉士の勉強もしていましたが、大学4年になり念願かなっての特養の介護職の内定をいただき、将来自分は介護員→相談員→ケアマネの流れでいくのかな…と思っていた矢先、たまたま地元の役所の求人を見つけて応募したところ縁があり内定をいただきました。長年の夢を目前にどちらか悩んでいた私にゼミの先生が「市役所は色々な世界が見えて福祉や制度について勉強になるよ」と勧められ悩みながらも市役所に決めました。現在はおかげ様で毎日勉強の連続で、学生の時には想像の付かなかった世界を見ることができ、視野を広げることができたのかなと思います。

一昨年より相談を受けるようになりましたが、当初は(今でも十分とは言えませんが)うまく話を進められず、自分でない人が相談対応していればもっとこの人の人生はよくなったのではないかと不安になり疑心暗鬼になることもありました。社会福祉士の仕事は、相談に乗り、その人にとって必要な資源に繋ぐことかと思っています。そのためには制度や地域の資源を知り、その人の本当の気持ちを引き出し、ニーズを掴み働きかけていく。中には、話しても必要性がわからず動かない人もいるため、どうアプローチしたら効果的なのか考えて動く必要があります。また、「障害」の範囲は乳児から高齢者までと広く、同じ病気だとしても育った環境や人間関係、年代が異なれば全て同じ支援とはいきません。「場数を踏め」と大学の先生や職場の上司にも言われておりますがまさにその通りであり、この人がどんな境遇でどんな気持ちなのか、何を大事にしているのか、相手の立場に立って考えて支援していくことが大切だと改めて実感しました。当たり前のことですが、単純なようでそれが難しく、それが専門性でもあるのかなと思いました。

また、制度はあっても地域に使える資源がないことが多くあります。もちろん、資源がなければ補える何かを探すしかないのですが、最近では社会資源の開発にも目を向けていきたいと感じているところです。市の協議会等で市内・近隣の障害福祉関連機関で障害福祉について討議をする場があるのですが、そこでも最近、制度に乗らない方を救える居場所がほしいと意見が出てきております。障害や病気をお持ちの方、高齢の方、引きこもりの方、子ども、子育てをしているママパパ etc…。障害等のない人もどんな立場の人でもフラットに行って、「お互い様」という感覚で助け合える場所や環境作りが必要だと思います。なかなか新しいことを始めるという大変ですが、徐々に関係機関に働きかけ具体的に動いて行けたらと思っています。

まだまだ未熟な部分が多く迷ったり悩んだりすることが多くあると思いますが、とにかく場数を踏み良くも悪くも様々なことを経験し、良い部分を吸収していきたいと思っています。これからはもっと社会福祉士会等の研修会や講演会で知識を深めたり、同じ社会福祉士の皆さん、他職種・多職種の方々とも繋がりを深めていきたいと思っていますので、先輩の皆様、お世話になるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。



# 県北ブロック通信

皆様、ご機嫌いかがでしょうか？ 県北ブロック 広報の石井です。

前回は掲載を怠りまして、大変申し訳ございませんでした。今回も前回同様、会員の都合が付かず、定例会自体はなしですが、それまでにあった事例という形にて、ご報告できれば…と存じます。随分と前の話にはなりますが、ご了承くださいませ。

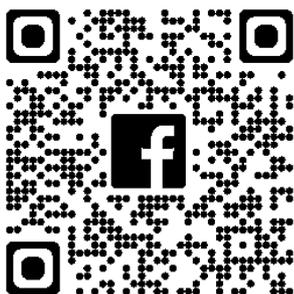
昨年になりますが、10月の「台風19号接近」に伴う県北各地の河川流域の水害は、非常に凄まじいものがありました。自分が勤務する職場に於いては、河川(常陸太田市 里川)の水量があつという間に上昇し「氾濫危険水位」に達しました。その時、自分は職場勤務でありましたが、雨量も凄いことになっており、また、職員からのLINEにて地域に河川の水が流れ込んだ画像をも送られており、その日は職場に留まることを決めた次第です。

程無くして、市役所から「避難所開設要請」が電話で伝達されたこともあり、施設所有の体育館(注: 職場は旧小学校建物の居抜きです。)を住民に開放するに到りました。

これらの経験から、市主催に於いて「水害避難等の計画策定」の研修も増えまして、今後における「避難住民の受入れ」等を念頭に入れつつ、業務にあたっていかねばならないであろう…と個人的に痛感した次第であります。日常の業務とともに、今後における課題を突き付けられた感がありました。



茨城県社会福祉士会のFacebookページもよろしくお願いします！



<https://www.facebook.com/csw.ibaraki/>

各種お知らせや研修会の様子等を発信しています。  
皆さまぜひ「いいね！」やフォローをお願いいたします！

※「いいね！」などのご参加を頂くにはFacebookへの登録(無料)が必要となります。  
Facebookに登録しなくても閲覧は可能です。



# 県央ブロックだより



実践報告会

シェアの場 in 水戸

## 2019年 実践報告会に参加して

県央ブロック 鹿志村 武史

12月7日(土)に、総合福祉会館で県央ブロックの実践報告会が行われました。県央ばかりではなく、県内の各ブロックから計26名が参加者して、お二人の報告を聞きました。

一人目は、社会福祉の仕事に関わって50年の大ベテラン、前ブロック長の檜山信雄さんです。大学時代、カール・ロジャーズに影響を受けて知的障害児施設に就職したのが始まりとのことでした。その後、県の奨学金をいただいて大学に編入学し、障害者施設に就職。利用者とは「共感と受容、感得等」を常に意識して関わってきたそうです。成年後見人として活動しながら、職場においては『障害者の親なきあと』の課題に向かい、NPO法人を立ち上げ、法人後見の受任にも取り組んだ活動の報告をお聞きしました。趣味のひとつにサイクリングのお話がありました。県央地区を車で走っていると、どこかでお会いするかもしれません。

二人目は、こもり社会福祉事務所の小森弘道さんです。県社会福祉士会事務局長でもあり、「ようこそ先輩」でも何度もお話をしているので、ご存知の方も多いと思います。社会福祉に飛びこんだきっかけは、大学卒業前に、父親から「大学出たのに、福祉で飯なんか食えるのか」が原点だそうです。卒業後に特別養護老人ホームに就職し、相談員や事務長職を勤めあげ、平成23年に退職し個人事務所を開業。現在は、成年後見等の受任をはじめ、各種講師や財団法人などからのコンサルタント・相談事業、ケアマネ業務など各種多方面での活動をされているとのことでした。最後に「心の部分」では、専門職として倫理観や価値観を大切にしているが、様々な場所に出向きいろいろな方と関わりを持つ中で、社会福祉士の認知度の低さを痛感し、社会福祉士として意識しながら認知度を広げることを課題としているそうです。

お二人の報告を聞き、カール・ロジャーズの「共感と受容」の大切さを思い、社会福祉士としてさらに活動の幅輪広げてゆかなくてはと思いました。

## シェアの場 IN 水戸に参加して

大金 幹夫

私は介護関係の仕事をや約20年しております。今回、障害サービスに携わる方々、当事者の方々のお話を伺う機会に初めて参加させて頂きました。介護サービスと障害サービスの違いとして、『介護サービスは出来なくなったことを出来るように支援すること、障害サービスは出来ないことを出来るように支援すること』介護と障害の自立支援の意味合いの違い、また、介護サービスのよう、要介護状態になってから支援するのではなく、障害サービスは生まれてから障害をお持ちの方もおり、世代の広さにも驚きました。『人材不足、社会資源の少なさ』は障害サービスも共通で、地域の支えが必要なこともわかりました。当事者さんのお話から、支援されている方が本人の意思をきちんと読み取り、絶妙なタイミングで支援している、当事者、支援者の深い信頼関係ができていたのを感じました。一人ひとりに寄り添う、相手の立場になってその方にあった支援を考えていく、障害サービスはその利用者の障害の程度、年代、生活背景が多様化しており、支援者側も一つの考えではなく、多面的に物事をみる、考えることが重要と感じました。

今回の研修で障害サービスの奥深さを知り、障害サービスについて、『もっと学びたい!』と思いました。ありがとうございました。



# 県南ブロック活動報告

ホームページ ⇨ 『茨城県社会福祉士会 県南』で検索

例年でも年度末で忙しい時期ですが、今年は、新型コロナウイルスへの対応で、更に、ご多忙な方も多いかと思えます。一日も早い感染拡大の収束と混乱の解消をお祈りいたします。

さて、来年度も県南ブロックでは定例会議にて実践報告、研修会などの開催を計画しています。まだお顔を出されていなかったり、しばらくご無沙汰であったりすると、参加を躊躇してしまうかと思えますので、社会福祉士のお知り合いや知人にお声を掛けて頂きぜひ一緒にお越しください。

## 県南ブロック活動報告！

12月14日：霞ヶ浦医療センターにて、筑波大学人間系の山中克夫氏を講師に「行動分析による認知症ケア」をテーマにブロック研修会を実施しました。多くの方に参加いただき、講師の話も実践の場面で役立つものが多かったです。

同日：定例会を実施し、橋本会員による活動報告を通して、土浦市社協での取り組みを知ることができました。市町村によって多種多様な取組が実施されており、勉強になりました。

2月15日：県南ブロック定例会では、岡野会員の活動報告と来年度の県南ブロック役員を決めました。詳細は、下記のとおりです。



## 次期の県南ブロック役員 (2020年4月1日～2022年3月31日)

- ブロック長 : 佐々木 伸 行
- 副ブロック長 : 猪 瀬 厚  
伊 藤 真理子
- 研修事業部長 : 佐々木 涼 子  
滝 口 美智子
- 相談事業部長 : 谷 口 照 子  
押 野 亮
- ぱあとなあ : 藤 井 誠  
有 井 るりこ  
星 茂 行
- 広報担当部長 : 染 倉 有 希  
岡 野 和 弘
- 組織強化部長 : 山 口 めぐみ  
布 川 まりこ
- 会計担当 : 羽 成 木綿子
- 庶務 : 西 村 礼 子  
高 木 美 央
- 監事 : 椎 名 清 和  
大 友 美智子

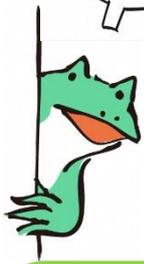


## ★今後の定例会予定★

| 日程    | 勉強会担当者                   |
|-------|--------------------------|
| 4/18  | 大友会員<br>(ソーシャルホットスペース)   |
| 6/20  | 小須田会員<br>(下妻市役所)         |
| 10/18 | 椎名会員<br>(つくば国際大学)        |
| 12/19 | 佐藤(公)会員<br>(相談支援事業所わくわく) |
| 2/20  | 染倉会員<br>(つくば市役所)         |

今回は4月18日(土)18時～土浦市役所2階 研修室にて開催を予定しています。

※新型コロナウイルスの状況により中止する場合があります。



今年度は3回の定例会を開催しました。たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。2月定例会は、新型コロナウイルスの感染拡大前だったので通常通り開催できましたが、4月以降は動向を踏まえて検討していきたいと思います。

3月のリレートークは、居宅介護事業所 はばたきの介護支援専門員 坂口 節子さんです。

**認**知症対応型グループホームで10数年間勤務させていただいていた中で、私の師匠である(勝手にすみません)先輩社会福祉士との出会いがあり、その背中を追いかけて今に至ります。八千代町にある居宅介護支援事業所はばたきで介護支援専門員として、下妻市にある障がい相談支援事業所藍藍で相談支援専門員として、また、念願かなってばあとなあの間に入れていただき、3年目を迎えることができました。

多くの人との出会いは、自身の糧となり、人と人がつながっていく様を目の当たりにして、日々感動と感謝の念に堪えません。

生活を共にするグループホームでの支援から居宅に変わった時には、訪問時にその人や生活を垣間見ることしかできないところでのアセスメントに大変苦勞をしました。その人や生活を点でとらえることのないように十分注意を払い、本人、家族は勿論のこと関係機関の情報も基に、自分の視点に曇りや誤りはないか検証することに時間がかかりすぎな感は今も否めません。サービスや資源の情報を提供させていただく中では、あくまでも黒子役に徹することを肝に銘じこれもまた、非常にジレンマを感じてしまっています。

社会福祉士として何ができるか、何をすべきか考える時には、反対に、自分の想いや目指すビジョンを思い切って声に出すことを大切にしています。声に出せば、賛同してくれる仲間の輪が広がり実践へと導かれますし、私自身、途中であきらめることなく、仲間とともに邁進できます。(言い出しっぺは後に引けない。)

まだまだ、知識不足で失敗もありダメダメな私ですが、研鑽を重ね、時に立ち止まり振り返りながらも1歩ずつ歩んでまいりたいと思います。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

★次回のリレートークは、結城市地域包括支援センターの小川直子さんです。

#### ★ブロック担当役員になりませんか？★

理事改選と同時に、ブロック担当者も任期満了となります。研修会や交流会の企画、広報の作成等、一緒に活動しませんか？ご連絡お待ちしております。

#### ★掲載記事募集★

広報誌やホームページに掲載可能な各地域での研修会、お知らせなど、記事を随時募集しています。情報をお持ちの方はぜひお寄せください。

Mail : mymisk1208@gmail.com



# 鹿行ブロック情報

## 鹿行ブロック研修会を開催しました。

去る12月7日(土)、神栖市平泉コミュニティーセンターにて鹿行ブロック研修会を開催し、会員9名の参加がありました。研修会では茨城県動物指導センターの園部氏(獣医師)から、動物指導センターの取り組み内容を中心に、私たちが相談支援の対象としてペットと同居する方と関わるにあたって、どんな準備をしておくべきか、またどんな支援方法があるのか話していただきました。

動物指導センターでは、「人と動物の共生する地域社会の実現」を目指して、動物愛護精神と適正飼養の普及啓発に努めています。

私たちが相談支援をする対象者にも、ペットを家族として迎えている人が少なくありません。一人暮らしの高齢者とペットの問題は、施設入所などが検討されるときには次の飼い主を見つけようことが大切になること、多頭飼育をしている対象者には早めの動物指導センターへ相談することが大切になることを伺えました。

研修会終了後は情報交換会を兼ねて、懇親会を開催しました。今回のようなテーマはなかなか聞けないテーマということで、参加者からは同じ社会福祉士でも仕事では違う役割を担っていることが多いことから、今後も様々な切り口の研修に参加したいという意見も寄せられました。



鹿行ブロックでは、ゆるやかなネットワークづくり、また会員を増やしていけるよう事業展開していきたいと思えます。

# 第32回社会福祉士国家試験結果

受験者数：39,629名

合格者数：11,612名

合格率：29.3%

茨城県の合格者数：221名

3月13日に合格発表があり  
茨城県でも221名の方が合格  
しました＼(^o^)/  
新たに社会福祉士に仲間入りをする  
方に出会ったら「合格おめでとう！  
社会福祉士会に入って一緒に活動し  
よう！」とお誘いくださいね♡



## 【編集後記】

寒暖差が激しい日々が続いていますが皆さまいかがお過ごしでしょうか？間もなく年度末を迎えることに加え、新型コロナウイルスへの対応で忙しくされている方も多いことと存じます。1日でも早く終息へと向かい、全国の皆さまが平穏な日常を取り戻せることを心から願っております。

今年度は皆さまのおかげで第27回日本社会福祉士会全国大会(茨城大会)を無事盛會に終えることができました。ボランティアで初めて参加して下さった方もいらしたと思います。その後、例年と比べ今年度は多くの新しい会員の方にご入会頂くこともできました。

来年度の高知大会は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となってしまいましたが、茨城県社会福祉士会では感染拡大の状況をみながらにはなりますが、来年度も共通基盤研修等開催していく予定です。ぜひ一緒に学び・交流し、ネットワークを広げていきましょう！未入会の方がいらっしゃいましたら入会のお誘いもぜひお願いいたします。

広報事業部



